



訂誤

庭訓往来捷註

全



題捷註

頃者平仁先生口授の勞と厭ひ捷註を撰てて家童に授けり予も稿を見見たり

此書小於し南窓は南窓忽ち一つ大窓を穿ちぬやう苟も盲に雜にすべしんハ孰も

突訓の讀難きと患ふん先生此書とて玄惠の各に依り存せずは作る所に

とす其謂ひ何れと知はば公家全盛の風と足利至隆の風と混雜しまり

玄惠の何れと足利家の盛を見る小なるん先生の眼目一々に世に属す

數る年に誤謬後來の疑惑一洒々と盡ぬ謂ふ也一然るも其

事物を輯綴しまれの者有り博考博考識の多し小なるんに終す

是れ先生の此書に於りて家童小技ふ所にありし童蒙の文雅志者也

必ず此書をとりて梯階とせり



江都駒籠隱士

烏有齋誌

凡例

一 此撰唯童蒙小便事と主し故に文辞の鄙俗なり成願す俗間日用
乃文辞小至くハも注を代

一 此書首五六章ハ大抵讀易其下ハ解難者多し淺易者ハ
注解務く簡易に任ず童蒙を以て熟思せしめ其才と育長

一 蒙の語解とん事成りたの故を蒙
文字乃異同多し是を衆小技く最善者小從ハ隻字片句

一 童蒙讀法ハ時人事を思れ是と其上に贊し誦讀小便
遺忘し備ふ

一 服物器械の如きは詳小注し其とも摘論する能く却て煩冗と
加す故に註に讓り唯其大畧以注しるは

一 天台山小惠法印のりふ僧あり元羽州の人なり
佛經ハ由海其他の書籍を佛經一稿子英才乃
名顯れ下小學えりある時一篇の書はり

庭訓往來捷註

庭訓往來捷註

○捷ハ教疾し訓
引て速也
註ハ元匠と向也
下ハ小惠の
りて備ふるを
て人より事
の備中より
すハ一板
とて是を
板牙理を
故水片と云
改く註し書
此庭訓の注
速く通する

海庭訓往來捷註
海庭訓往來捷註
孔子の弟子の如く庭訓とは人々を教ふる事なり
類いしや一の書ふち見たり皆庭ハ堂下の庭を
そしていなりこれ庭訓の庭は字ハ修り用ひし
さてありておまかり一人を教ふる事を庭訓と
りておまかり一人を教ふる事を庭訓と
彼より送りて庭訓をいふ事書すの事所記十五
一國政の事あり家督の事あり士農の事あり
乃事あり武藝の事あり神祇の事あり教の事あり

捷註と願し

春物申儀の内儀
申す方より申して
後ひ申す儀
富貴万福の
申す事

拾遺初朝
の儀

初日元元
の儀
人の子乃日
拾遺初朝
の儀
申す事

軍族あり衣服器械安樂疾病あり皆往來此書
此書人教諭し名名此書に庭訓往來といふ事

春物申儀の内儀

申す方より申して後ひ申す儀

富貴万福の申す事

幸甚と申す事

拾遺初朝の儀

初日元元

の儀

人の子乃日

拾遺初朝

の儀

申す事

似若鶯志

松花小蝶遊

日法

お又楊子雀小弓勝負

田舎りて雀をくく月あり

石王雜記

近日打續之を
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者

八物... 八所... 八物... 八所...
近日打續之を
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者
射に馳挽者

正月五日

九條尉教不賀

謹上
石見守殿

改年吉慶

先旨

自他如事

千事

昔れ枝見之儀

春陽遊宴

正月五日... 改年... 昔れ枝見... 春陽遊宴

春陽遊宴

此の妙を
世に平く
為るは
故

即ち此仕を
すすの
有るは
也

四季を五行に配するは、春は木、夏は火、秋は金、冬は水、土は中央に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。此の如く、五行は四季に配する。

究竟の上
一あるは
可也但
善月也

凍早解為霜也

殊亦重也

即不復得は

魚も也

不復得

者

究竟の上

兩輩不令同道也

但的

矢暮目小

但的

善月也

善月也

善月也

花小ううらなて山を
わううらなて山を
花小ううらなて山を
わううらなて山を

其次と云ふは
其次と云ふは
其次と云ふは
其次と云ふは

如雲以第
如雲以第
如雲以第
如雲以第

去而之也
去而之也
去而之也
去而之也

難念期
難念期
難念期
難念期

以美以成
以美以成
以美以成
以美以成

方左道之松
方左道之松
方左道之松
方左道之松

明後日
明後日
明後日
明後日

不可言
不可言
不可言
不可言

同不望
同不望
同不望
同不望

自是
自是
自是
自是

砚懐紙
砚懐紙
砚懐紙
砚懐紙

懐中
懐中
懐中
懐中

紙上
紙上
紙上
紙上

海胡糸
海胡糸
海胡糸
海胡糸

也
也
也
也

也
也
也
也

也
也
也
也

也
也
也
也

不具其心

二月廿六

淳宗之善

澄上

大聖物成

是自然令ん
物は自然に成る
思ふは自然に成る
人の心は自然に成る
心は自然に成る
心は自然に成る
心は自然に成る

指花庭の

花香月

好七う好む和治
好七う好む和治
好七う好む和治
好七う好む和治
好七う好む和治
好七う好む和治
好七う好む和治

法師進の神
法師進の神
法師進の神
法師進の神
法師進の神
法師進の神
法師進の神

後庭庭前
後庭庭前
後庭庭前
後庭庭前
後庭庭前
後庭庭前
後庭庭前

凡森面有
凡森面有
凡森面有
凡森面有
凡森面有
凡森面有
凡森面有

去く次方

不具其心
刑中早中の詞あり

二月廿六

淳宗之善

澄上 大聖物成

欲自是令之受成る成其向

之表云也

指花庭會事

花香月

好七う好む和治

法師進の神

後庭庭前

凡森面有

森雨也

若今明之間

有暴風

有暴風

森雨也

同く片時も意
を度なし
九赤人の古凡と
作く唯人
秋施頭
平折句當冠乃
凡情臨已情
奇談流の
を亮めま

詩聯句老若
の家流を

更忘序
情終頌
を忘る
人小竹
堂火の焼は
まま同

執為後日の
執為後日の
執為後日の

同志行時意及列之

和秋下の

唯作人九赤人今古凡

未亮長秋纏

奇施頭混幸打句當冠之凡情

轉已情臥打越流頌成

詩聯句老若注小左

汲菅家江家之流流

更忘序

表賦題傍施韻聲之次貝

頗如猿猴之似人同螢火之精燈

然句放人救一分之殆

一指存日心辱

執為後日の

執為後日の

執為後日の

執為後日の

作業事

耕作の事... 耕田の事... 耕作の事... 耕田の事...

魚相水旱之季

魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

魚相水旱之季... 魚相水旱之季... 魚相水旱之季...

西收約

西收約... 西收約... 西收約...

西收約... 西收約... 西收約...

西收約... 西收約... 西收約...

西收約... 西收約... 西收約...

春法の既得を
既得

次小留（すゝ） 蕎麥（そば） 大豆（まめ） 小豆（あずき）

畑山島乃乾糞（かたけ）

素代加地子と保（たも）

毎年（としごと） 実換（まか）

の備胎（たもと） と保（たも）

次（つぎ） 法（ほう） 鍛造（たうぞう） 作（さく）

大城（おほしろ） と接（つぎ）

可（よ） 控（か） つ 扉（かど） 門（かど）

平（ひら） 門（かど）

作物の實を九入り
すれ 春法既得（つばきほう じとく） 春法ハ田と口を
幸之始ハ町と云々也

次留（すゝ） 蕎麥（そば） 大豆（まめ） 小豆（あずき）

大田（おほの） 豆（まめ） 粟（あわ） 表（あ） 黍（こ） 稗（ひ） 小（こ） 法（ほう） 畑（はたけ） 山（やま） 島（しま） 乃（の） 乾（か） 糞（けん）

乾糞（かたけ） 乃（の） 保（たも） 代（た） 加（か） 地（ち） 子（こ）

代加地子（たかちこ） 粟（あわ） 黍（こ） 稗（ひ） 小（こ） 法（ほう） 畑（はたけ） 山（やま） 島（しま） 乃（の） 乾（か） 糞（けん）

毎年（としごと） 実換（まか）

之（こ） 法（ほう） 鍛造（たうぞう） 作（さく）

存（ぞん） 自由（じゆ） 之（こ） 備胎（たもと）

次（つぎ） 法（ほう） 鍛造（たうぞう） 作（さく）

不可（ふか） 有（あ） 名（な） 之（こ） 他（た） 子（こ）

奉（ほう） 行（こう） 子（こ） 穿（せん） 拵（じゆ） 大城（おほしろ）

て 園（えん） 意（い） 築地（ちくじ）

棟門（とうもん） 夜（よ）

つ 可（よ） 控（か） つ 扉（かど） 門（かど）

平（ひら） 門（かど）

上土の薬医門の
際小放て之と
相討ふ可

板庇の廊中の渡
殿の表板葺

侍殿と本圍廻
葺はる字文所
公文不政下膳所
臺所執殿局以
屋四行

棧發健兒所を
葺堂葺支度
寸介之南向
無々之場と通
埒と往と回
的の山と築可東
向の山と葺埒と
棧の山と葺埒と
棧の山と葺埒と
葺山と葺埒と
寸介之方角
流し禁忌安の
小々之方角可

上土門 あかしの 薬殿門 柱の地

赤の山をまき地をうらひ又まきあき可相討之 上土

夜殿 夜殿の 葺堂葺

板庇廊 庇の

中門渡殿 中門の 表板葺 表板の

侍法殿 侍法の 本圍廻 本圍の 臺所 臺所の 執殿 執殿の

字文所 字文所の 公文不政 公文不政の 下膳所 下膳所の 葺法 葺法の

臺所 臺所の 執殿 執殿の 房部 房部の 瓦 瓦の

棧發 棧發の 健兒 健兒の 平 平の

葺堂葺 葺堂葺の 支度 支度の 南向 南向の 通 通の 並懸 並懸の

之馬場 之馬場の 令結埒 令結埒の

岡可築 岡可築の 的山 の山の 東面 東面の 棧 棧の

鞠之坪 鞠之坪の 棧 棧の 本懸 本懸の

泉 泉の 有 有の 石 石の 築山 築山の 並水 並水の

随方角 随方角の

流 流の 出 出の 仁 仁の 眺 眺の 中 中の 随方角 随方角の 東面 東面の

南 南の 西 西の 北 北の 乃 乃の 四 四の 隅 隅の の の 中 中の 令 令の 禁 禁の 忌 忌の 松 松の 之 之の 中 中の 小 小の

喜放小お枝さ桂
皮膏の持佛堂
礼堂をさす不
家体不も先佛
茂也 清小も先
又庫を接不可
其十回ハ片ハ接
是れ樹本に接の
竹茶栽茶園同
一洞ハ強可く

急慢無勤はせ
仕もた美と
下の名はく
ゆ也さす
二月七日
玄蕃の九平
内政而後

不
物セ下被事
小ゆ
年ぬ
下不
下文

計之 横忌ハ皆ハ一 事之家
お枝

お殿 客人小 可立桂皮膏持佛堂

禮堂 佛堂を並 庵室体不

先級茂也 高室体不 傍

又の構茶苑文庫 片ハ 中向

庭也 中 存茶樹本に接竹 園

同て調強也 接 茶園 裁ハ

急慢無勤はせ 急慢ハ 一は忠

賞之旨 忠賞ハ 不始也 不

事と作 事 与く後 後

二月七日 玄蕃九平

内政而後

被下條之具以承作半

柳不芥存等閑也

抑去下文 御教書

判也

見たりのりさきぶ
教をいし入部
供

いさかやあつら
知候す候所小
存んて道ゆを
令ゆひ早ぬ

去書に去日辰
を撰ひつるを
也

耕作業の
也

地下に文書の事

或ハ誤失或を
失墜活れそ由
沙汰人ホ接ん
の事

正入

事ハ実者入土
市の交際事係
搜

地下に
の文
入部
入部使

節
節ハより背ありむし候をけり
申り一也人使
申り一也人使

申り一也人使
申り一也人使

在彼所令道切早
在彼所令道切早

申り一也人使
申り一也人使

去書と撰
去書と撰

吉日良辰
吉日良辰

耕作業家の地
耕作業家の地

地下に文書の事
地下に文書の事

或ハ誤失或失墜活
或ハ誤失或失墜活

沙汰人
沙汰人

依構中
依構中

穴小
穴小

事之実否
事之実否

入土負負
入土負負

教小
教小

尋搜
尋搜

庭を中す
下地は小作
柳梁柱を押し
本板敷し材は
松梁板の石

松丸とおく
今頃の年ぬ
冠本能の板敷

唐唐の板敷
方立を習本

懸魚

庭の中庭を中す
次作す

柳梁柱を押し
本板敷し材は
松梁板の石

松丸とおく
今頃の年ぬ
冠本能の板敷

唐唐の板敷
方立を習本

懸魚

庭を中す
下地は小作
柳梁柱を押し
本板敷し材は
松梁板の石

松丸とおく
今頃の年ぬ
冠本能の板敷

唐唐の板敷
方立を習本

懸魚

庭を中す
下地は小作
柳梁柱を押し
本板敷し材は
松梁板の石

松丸とおく
今頃の年ぬ
冠本能の板敷

唐唐の板敷
方立を習本

懸魚

庭を中す
下地は小作
柳梁柱を押し
本板敷し材は
松梁板の石

松丸とおく
今頃の年ぬ
冠本能の板敷

唐唐の板敷
方立を習本

懸魚

庭を中す
下地は小作
柳梁柱を押し
本板敷し材は
松梁板の石

松丸とおく
今頃の年ぬ
冠本能の板敷

ササ

子

厨子

連子

柱垣

透塙

風關板

栴檀板

栴檀板

隅子

遺戸

毒戸

変入

字立

足堅

障子骨

押樽

青地の具足

山造の斧端

隅子

遺戸

毒戸

変入

字立

足堅

障子骨

押樽

水

青地の具足

山造

斧端

行合

鉄

遺戸 毒戸 変入 字立 足堅 障子骨 押樽 水 青地の具足 山造 斧端 行合 鉄

本又ハ作年と少下りて漏る候へり

下り候漏る候へり

又ちいさ戸より

板ととも今も内一方ハ角く

上代組をうへる

板敷の下に

障子ハ今も

柄桶組

柄桶組

山造

斧端

行合

鉄

遺戸

毒戸 変入 字立 足堅 障子骨 押樽 水 青地の具足 山造 斧端 行合 鉄

准童蒙小共事

令造小也

拙の乃を書法の外あり
おちやとほを伴えんとく

生察依理職大工

生の察依理職ハ皆物一人
の役あり書法を以て他の

巧通と石下致

巧通ハ巧通ハ

祈立

書法の初致祈を
つひ初致祈なり

礎居

地敷とわごめ
柱の石より

柱立

普請と組
卯をなり

精進

仕向けのめん
をかくる

之吉日志

棟上ハ書法の組納あり祈より
以下此六の事皆吉日と撰てしるく

陽頭一と定下

年中此日ハ
忌日不用也

首途小用ハ日書法より
小用ハ日書法より

次小樹中事

杏楊梅柿栗梨子推榛柘梅棗

楊梅柿栗梨子

推榛柘梅棗

推榛柘梅棗

樹淡柚柑梅子楊雲州橋合柑柚

以下

以下 其外雜木あり
若して下下しきり

年ぬ

水畢 年ぬ
身求て極付たり

下志法

下志法 下志法
法日記ハ所代ハ此

又雜

又雜 又雜
書あり

まねるゝるゝ原の傍りて見れば煙く川民のかゆく、
わきんひまらうと御しむりせぢおふりてかくいさく **正性**

之門東西と業繁 東は東作西は西收業は
有七方の業繁

仁政と志不致也 仁政は下とあはれを志す
まうくして仁政は致す

貴爵者重 貴爵は重たす
爵は重たす

知人の堪者 知人は堪る者
知人は堪る者

理珠分明 理珠は分明
理珠は分明

礼物と軒車 礼物は軒車
礼物は軒車

お氏不神也 お氏は不神也
お氏は不神也

心存寛宥と技 心存寛宥と技
心存寛宥と技

法不奸と説諫志 法不奸と説諫志
法不奸と説諫志

所願静澄と基也 所願静澄と基也
所願静澄と基也

六吹乞 六吹乞
六吹乞

先と吹乞 先と吹乞
先と吹乞

業繁の門東西乃
業繁の門東西乃
業繁の門東西乃

貴爵者重
貴爵者重
貴爵者重

知人の堪者
知人の堪者
知人の堪者

理珠分明
理珠分明
理珠分明

礼物と軒車
礼物と軒車
礼物と軒車

お氏不神也
お氏不神也
お氏不神也

牧士
炭燒越吏

いもの
柱杓師
漆師
紙師
義賣
主撰

漁師
朱砂
白粉
焼

朱砂
白粉
焼

高帽子織
商人
酒師
造
弓矢
細工
漆師
青
乃去
人猿
人猿

田樂

樂

馬と疋居するの相なりたる者ありゆ業といえらるり

若く今

牧士

物をもつて

炭燒越吏

漆師

紙師

海師

府法源

漆師

漆師

柱杓師

本具まけぬ

漆師

紙師

海師

府法源

漆師

漆師

漆師

漆師

物を修り

若く今

漆師

紙師

海師

府法源

漆師

漆師

漆師

漆師

粉金具

漆師

紙師

海師

府法源

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

義賣

主撰

漆師

紙師

海師

府法源

漆師

漆師

漆師

漆師

漁師

朱砂

白粉

焼

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

朱砂

白粉

焼

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

引馬

高帽子

織

商人

酒師

造

漆師

漆師

漆師

漆師

矢

細工

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

梳師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

世取

德太子

十六

素の

河

橋

漆師

漆師

漆師

漆師

乃翁

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

田樂

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

田樂

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

漆師

柳子舞傀儡師
氏邑法師
傾城白拍子
控女夜餐の草

并小医師陰陽師
法師
武藝お撲々族

或禪律の俗
聖乃浄土の硬
字畧教密宗の

修験の巧者
験の巧者
聖人の紀典
純の儒者

明法明純の居士
詩歌の宗匠
後撰の

柳子舞傀儡師 傀儡といふ人形の有り

氏邑法師 氏邑といふ人の姓と

傾城白拍子 傾城といふ地名

控女夜餐の草 控女といふ女

法師 法師といふ

武藝 武藝といふ

相撲々族 相撲といふ

或禪律の俗 或禪律といふ

聖乃浄土の硬 聖乃浄土といふ

字畧教密宗の 字畧教密宗といふ

修験の巧者 修験の巧者といふ

験の巧者 験の巧者といふ

聖人の紀典 聖人の紀典といふ

純の儒者 純の儒者といふ

明法明純の居士 明法明純の居士といふ

詩歌の宗匠 詩歌の宗匠といふ

引声 聲の引
引声 聲の引
引声 聲の引
引声 聲の引

名僧 僧の名
名僧 僧の名
名僧 僧の名
名僧 僧の名

能書 書能
能書 書能
能書 書能
能書 書能

者 宏才利
者 宏才利
者 宏才利
者 宏才利

類 類
類 類
類 類
類 類

引声 聲の引
引声 聲の引
引声 聲の引
引声 聲の引

名僧 僧の名
名僧 僧の名
名僧 僧の名
名僧 僧の名

能書 書能
能書 書能
能書 書能
能書 書能

者 宏才利
者 宏才利
者 宏才利
者 宏才利

類 類
類 類
類 類
類 類

毎事 事毎
毎事 事毎
毎事 事毎
毎事 事毎

中務 務中
中務 務中
中務 務中
中務 務中

波 波
波 波
波 波
波 波

浦くは丸

同丸

是ハ甚ホクヨリテ其事ハ巧者ヲカサトイフ
なり京漢通金軍府並多摩原河尻大付坂本
各州河内各地の苦なり力持ハ使海船改なり馬借車借ハ貨積
をくく車と買者ありゆくと道中此高かりゆり信上と

法とか中者あり人少法を貸して十日目に利と如上右板信上
と之船法をお船屋多りとも云又かき世令かき世法をする者あり
とも云けりこの道と金持指て入る事受承あはれ世令かき世令と
りあゆりゆり是ハ江戸より大坂小川人とする上先江戸乃
かき世令とする家より金持を渡して大坂乃物事の方以て
更九れし云書付と川船板大坂小川り竹葉の方以て其書付
を渡して別仕書付と川船小是とかき世令かき世法と云渡去
法より舟比是て世令の勢き不申せ法をする者あり

同丸以別符進上之

同丸といふ者乃事あり同以別符進上之 刻符ハ竹小
非のよきうてたふふ其印の何とおらおと法は信上の時と
ふ人をも中流地ともいふあり進上といはくこの不せりあり

似儼載運送

儼載といは貨積をたぬとの也持
一もろふの也運送ハはくいた

次大商人綾

是より下る藤の証物と云
まいぬく不くの名物名知と云

練黄六条津物楮徳紺字治布

字治
の治

大宮納

馬丸鳥帽

京の大宮より西に
西陣と云信と成也

室町御楽

子島

楚歌織去忌

赤良刀

高野判刀

大糸

儼載よゆきて
之と運送中
小大商人乃綾
大付の結突ハ
糸此深物徳徳
乃紺字治の布
大宮の納鳥丸
此鳥帽子

室町の御楽
赤良刀
高野判刀
大糸

小紫の袋城殿
 の前仁知寺に
 眉化婦う小結
 此針黹さ此糸
 芽漬醍醐の鳥
 改布東山の茶
 西山の心太
 丹波加賀の絹
 丹後の精好美
 濃の上野尾流
 此八丈濃濃入
 布希濃細

甲子丹波の絹
 上野綿上総織
 武家純信濃布
 伊勢切付伊佐
 伊佐濃濃糸
 同檀低描磨の
 桐系備前口出
 雲継甲斐の絹
 長門の牛奥糸
 此令備中の袂

新小地炭 丹波の小地炭をい
 とすよき物す 小紫袋城

原羽 上京長者町に有
 松崎の所なり 仁和寺眉作 北山
 産物

比佐尼の扱 比佐尼の扱 姉小路針 姉小路に重徳寺に姉小路
 田原の所なり

鞍馬牛芽漬醍醐鳥改布東山

草西山心太 漢語抄よんち
 大根多し 丹波加賀

絹 加賀の小ねみき竹の下
 とよより好むす 丹后精好 丹後乃
 美はより

出精おき 出精おき 尖濃上京 このせり川と云ふより中
 布の上品といふ布とあり

尾浪尖濃濃布 雲あてきしる布
 あり伊佐布といふ 希濃

袖 右に前掲しる
 布より多く出 上野綿上総織 上野
 産物

馬の尾前かけ 馬の尾前かけ 武家純 武家純

足と並 足と並 伊波寄伊勢切付 伊波寄伊勢切付

この脊のありあるあり この脊のありあるあり 伊佐濃濃 伊佐濃濃

つしよふはけ馬々の幼小毒 つしよふはけ馬々の幼小毒 同檀低描磨 同檀低描磨

搦磨桐糸 紙の名あり
 信向のへん 備前刀 備前刀

小ぢり 小ぢり 出雲淋甲斐駒長門牛 出雲淋甲斐駒長門牛

奥州金 いさぎの神志の
 ぬりたより出 備中袂 備中袂

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏 夏
尋 尋
下 下
あ 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

夏仲り 蘇凡
尋常 尋常
下 下
あき 下
て 下
須 須
才 才
川 川
胃 胃
中 中
を 上
采 采
采 采

高家之人々

高家の買手り事と因東とソハ西を
買而と云因東下向の大名もあ入

人々の強金之類
勤の人々をいふ

以路次之便

道中の此可打
かたかり

寄由

お寄といふ
おしりやせ

内之其間候

そ凡そ
りうとく

折節草亭目苦敷

草亭はさうりさこれ家
をいふ草下の御方

資具又教々式作也

資具は答あふ
用ら道々と云く

不

預法扶持也

技おたてつけ
御方合方おしりやせ

難隠

今度耻辱

恥辱と云
くらと後

被助成也

御成と云く
御方すらう

生前大幸也

こころよあきらか
かもしれん

之客入

臨時にふりか
くらいひもよまるあまかり

纏頭之

外毎地

纏頭はあれおし人より
かほけよとらかり人よお敷をいふはも人

小わけりてあつ
このゆゑに答をえんすはわ
を他くゆり 特別にまらひ

卒示

経営

卒示はあつら
経営はあつらひ

周章之至忙

然也

周章はあつら
忙はあつらひ

離無心之所

望望

望望はあつら
望望はあつらひ

幔幕

後幕

幔幕はあつら
後幕はあつらひ

高家の使とて
お寄りての内
くまははれ
美亭又若
突々又教
式よとて
此は不
どの和亭
御一御
はれはせ
ま也

臨時の客入纏
此は外毎地

卒示はあつら
経営はあつらひ
周章のゆゑに忙
也を人の不
忙也

後幕

同串 兼縁

同串 兼縁

同串

高麗縁

高麗縁

翠簾

翠簾

深縁

深縁

深縁

風儿帳

風儿帳

翠簾

翠簾

翠簾

借志

借志

借志

借志

借志

賜之

賜之

賜之

賜之

賜之

鈍子

鈍子

鈍子

鈍子

鈍子

茶碗具高杯

茶碗具高杯

茶碗具高杯

茶碗具高杯

茶碗具高杯

引入公字

引入公字

引入公字

引入公字

引入公字

墨盞油蠟燭珠輪

墨盞油蠟燭珠輪

墨盞油蠟燭珠輪

墨盞油蠟燭珠輪

墨盞油蠟燭珠輪

進注文

進注文

進注文

進注文

進注文

悉以借願志

悉以借願志

悉以借願志

悉以借願志

悉以借願志

進使者也

進使者也

進使者也

進使者也

進使者也

家人若堂并家也

家人若堂并家也

家人若堂并家也

家人若堂并家也

家人若堂并家也

仁宗皆以無骨田舍人也

仁宗皆以無骨田舍人也

仁宗皆以無骨田舍人也

仁宗皆以無骨田舍人也

仁宗皆以無骨田舍人也

配膳

配膳

配膳

配膳

配膳

勸盃

勸盃

勸盃

勸盃

勸盃

同串

同串

同串

同串

同串

翠簾

翠簾

翠簾

翠簾

翠簾

風儿帳

風儿帳

風儿帳

風儿帳

風儿帳

借志

借志

借志

借志

借志

賜之

賜之

賜之

賜之

賜之

鈍子

鈍子

鈍子

鈍子

鈍子

茶碗具高杯

茶碗具高杯

茶碗具高杯

茶碗具高杯

茶碗具高杯

引入公字

引入公字

引入公字

引入公字

引入公字

墨盞油蠟燭珠輪

墨盞油蠟燭珠輪

墨盞油蠟燭珠輪

墨盞油蠟燭珠輪

墨盞油蠟燭珠輪

進注文

進注文

進注文

進注文

進注文

悉以借願志

悉以借願志

悉以借願志

悉以借願志

悉以借願志

進使者也

進使者也

進使者也

進使者也

進使者也

家人若堂并家也

家人若堂并家也

家人若堂并家也

家人若堂并家也

家人若堂并家也

仁宗皆以無骨田舍人也

仁宗皆以無骨田舍人也

仁宗皆以無骨田舍人也

仁宗皆以無骨田舍人也

仁宗皆以無骨田舍人也

配膳

配膳

配膳

配膳

配膳

勸盃

勸盃

勸盃

勸盃

勸盃

料理庵丁或ハ
料記庵丁或ハ
の識者一箇也

雇令路ろてま
也万事又無し
思ひと成し
乞ぬおてゆ
弁指せ放る可
不侮らまぬの
時を給し

不具謹言
五月九日
左京進平
進上
藏人將監殿
御館
不審ふ方の如
玉奉如る
朱文不保
也彼れや
也

料理庵丁 庵丁ハ元庵主の人
牛と料理する

或盛物以下故實識者
此物を始り者あり庵ハ料理役丁ハ其人の右事ハ遊子
見たりそ多とあり用ひて色多し故料理をカと庵丁
とり今ハ料理は
又物の名を辨じ

一両比草 とんせんせんといれうと
とまのの作法礼儀ゆかぬ極重と之識者

可令雇給也万事奉成
在更と他カ
より若とり

父母之恩訖
とんせんせんといれうと
ハ事免とんせんといれうと
父母のこゝ思居ゆ

放必不可被弃捐
弁指ハまてすらうと
とらハ父母のこゝ思居ゆ

併朝泰清時候
料入りすわれえおと
見すたぬらうと

不具謹言

五月九日

左京進平

進上 藏人將監殿 御館

不審ふ方の如
不審ハつと
素とらふゆあり

玉奉如る
玉奉ハハ書出とらふ
お朱ハ書出のそきたらゆ也

朱文不保
朱文ハハ書出とらふ
お朱ハ書出のそきたらゆ也

也彼れや
也ハハ書出とらふ
お朱ハ書出のそきたらゆ也

也
也ハハ書出とらふ
お朱ハ書出のそきたらゆ也

抑主人の光陰
結搦乃弄を
奏しせりい

大沖堀堀老
と流しをい
也

相伝しゆふよりしていえりあり細細にらりしゆらるるこころら
はのそあるはるえんあつて拵ひむりかきよけひいかり

拵主人光陰 光陰ハゆりていふと 拵搦 拵ハゆりていふと

奔走 奔走ハ地を走り 奔走 奔走ハ地を走り

不注 不注ハ注をいふ 不注 不注ハ注をいふ

お取持 お取持ハ取をいふ お取持 お取持ハ取をいふ

焼老 焼老ハ老をいふ 焼老 焼老ハ老をいふ

改之裁 改之裁ハ改をいふ 改之裁 改之裁ハ改をいふ

改之裁 改之裁ハ改をいふ 改之裁 改之裁ハ改をいふ

大豆粒 大豆粒ハ大豆をいふ 大豆粒 大豆粒ハ大豆をいふ

味噌 味噌ハ味をいふ 味噌 味噌ハ味をいふ

幼拙料 幼拙料ハ幼をいふ 幼拙料 幼拙料ハ幼をいふ

海月 海月ハ海をいふ 海月 海月ハ海をいふ

煎汁地 煎汁地ハ煎をいふ 煎汁地 煎汁地ハ煎をいふ

梅干 梅干ハ梅をいふ 梅干 梅干ハ梅をいふ

能承子の大豆
林檎葉 味噌
葛根 海梅
幼拙の料
海月
煎汁地
梅干

能承子の大豆 能承子の大豆ハ大豆をいふ
林檎葉 林檎葉ハ林檎の葉をいふ
味噌 味噌ハ味噌をいふ
葛根 葛根ハ葛の根をいふ
海梅 海梅ハ海梅をいふ
幼拙の料 幼拙の料ハ幼拙の料をいふ
海月 海月ハ海月をいふ
煎汁地 煎汁地ハ煎汁地をいふ
梅干 梅干ハ梅干をいふ

此の類也 一めてたぐりの八巻目多くはくく一めてたぐりをき
き月か一とあく然や一ハ 雄と精と中入想一めく打とやう

これと物物中とと鳥取わくもまなれ方おしり味の優者あり
これくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

いふりかたへ一は四下居る程事な居る様ハ若くは上りの内
中入まきんきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

始く露て 鳥將閣 蟹味噌 甲内内
おる若をゆ

海鼠腸 経乃 鳥賊
かまこの

辛螺菜螺 蛤 乃
又海螺の書あり 厚徳法枝あり

博交雜唯 氷魚小
いづるあり

或いんまひ感一
或いんまひ感一

或いんまひ感一
或いんまひ感一

或いんまひ感一
或いんまひ感一

或いんまひ感一
或いんまひ感一

或いんまひ感一
或いんまひ感一

或いんまひ感一
或いんまひ感一

或いんまひ感一
或いんまひ感一

或いんまひ感一
或いんまひ感一

或いんまひ感一
或いんまひ感一

小室の雜記
物志は優てま
此の類也 一めてたぐりの八巻目多くはくく一めてたぐりをき
き月か一とあく然や一ハ 雄と精と中入想一めく打とやう

此の類也 一めてたぐりの八巻目多くはくく一めてたぐりをき
き月か一とあく然や一ハ 雄と精と中入想一めく打とやう

此の類也 一めてたぐりの八巻目多くはくく一めてたぐりをき
き月か一とあく然や一ハ 雄と精と中入想一めく打とやう

此の類也 一めてたぐりの八巻目多くはくく一めてたぐりをき
き月か一とあく然や一ハ 雄と精と中入想一めく打とやう

此の類也 一めてたぐりの八巻目多くはくく一めてたぐりをき
き月か一とあく然や一ハ 雄と精と中入想一めく打とやう

と云ふは... 意の如也

此の世と... 静波の流あり

此の世と... 悪意と引率

山海の... 令

静波の流あり... 為鶴野道遠

謀叛及逆の山... 引率盜賊根籍

悪意... 令

山海の... 令

山海の... 令

山海の... 令

山海の... 令

山海の... 令

山海の... 令

徒黨の二空乃
徒黨の二空乃
徒黨の二空乃

人の性急と棄
人の性急と棄
人の性急と棄

乞と追捕
乞と追捕
乞と追捕

大將軍の
大將軍の
大將軍の

向ひ被破
向ひ被破
向ひ被破

捕獲するの
捕獲するの
捕獲するの

要害と警備
要害と警備
要害と警備

是より因て
是より因て
是より因て

徒黨 同敷多く
徒黨 同敷多く
徒黨 同敷多く

行于討く
行于討く
行于討く

無人財産
無人財産
無人財産

恒宅
恒宅
恒宅

之旨
之旨
之旨

討
討
討

被破向方
被破向方
被破向方

當家一族
當家一族
當家一族

向被破場
向被破場
向被破場

却城郭
却城郭
却城郭

追伐不捕獲
追伐不捕獲
追伐不捕獲

之賊徒
之賊徒
之賊徒

警固要害云々
警固要害云々
警固要害云々

因茲
因茲
因茲

まらえらるる
近日を身とせ

んと欲しゆれ

世間の戦場武

具ある以下貞

とてして失ひ

ゆ年 志 弁の

後 宿直の巻

弁よ由余珍ホ
由御成ゆり
る可く

令及の出之

事家此眉目

一門の先達也

つ葉の人

えろ

給骨の令我と

此も可のる約

後さそは

りえかつまつ

志な令はは

再々の時

山百欲と進致ゆらるる

下 武具ハ武士の道具也

宿直 宿直の巻

若弁 若弁の巻

宿直 宿直の巻

弁よ 弁よの巻

由御成 由御成の巻

事家此 事家此の巻

一門の 一門の巻

つ葉の つ葉の巻

えろ えろの巻

給骨の 給骨の巻

此も可 此も可の巻

後さそ 後さそはの巻

りえか りえかつまつの巻

志な令 志な令ははの巻

再々時 再々時の巻

中入る可めせ
中人物

お軍家の内敷
書表巻の上
御鏡法儀おと
下し給るの御

中入る可めせ

こふ云ふちを右の... 御鏡法儀おと

御軍家の内敷
將軍の御法儀

書

お軍家の内敷と
書表巻の上

御鏡法儀おと

御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

御鏡法儀おと
御鏡法儀おと

内戚外戚の一族

一揆せざる者
且ハ我印の忠
吾小信

久の累大の清
此は是なり
相身は信と
新也

信代お徳の分
一不忠命の
地は地なり
お達は可ら不
去也

信命と頼と不
小信てん信と
信ま不也
信ら信善と
作也

内戚外戚一族

一揆せざる者
且ハ我印の忠
吾小信

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

忠告
君の命と持るをわらんト軍印と云ふ

あしゆき

六月七日
功徳地以友中阿

井上
後教之記の聖教

古今集を
せんといふ

たゞの言伝
なり

けりゆの条
なり

なり
なり

此後修め
しつかり
思ひ出さ

六月七日 勅教中次友中阿

井上 好教吉記聖教

只と欲を使志に
後教之記

信の条 遠るし
云ふなり

相 善はたわ
なり

叶中
なり

抑戦場中進

後事
なり

編旨院宣
なり

大庭規式令旨
なり

今指南
なり

今之指南
なり

大庭の規式令旨
今之指南なり

今之指南なり

大將軍副將軍
の由緒等

侍奉の軍勢

侍從又佐用
の由緒等
侍奉の由緒等

規抄
且そとか
先規也
海法中法可

去るく味方おはと先規敗軍せり
指車を送り再ハ規ひぬ
最後を先規敗軍せり
侍奉の由緒等

侍奉の由緒等

侍奉の由緒等

侍奉の由緒等

侍奉の由緒等

大將軍副將軍

軍法教書

侍奉軍勢

侍從又佐用

侍奉の由緒等

侍奉軍勢

侍奉の由緒等

侍奉の由緒等

侍奉の由緒等

侍奉の由緒等

侍奉の由緒等

友達の輩
於てハ後昆
為ス同法也
族と貽不

之と誅之
法竊黨
同と目負の徒
黨と辱の擄

擄の擄不可也
九と虜分捕
軍旅
能く用を以

しものしものもまたあるし又ハ先づ先づ乃ち其れを其れに
よりて海客を其れより其れに天下の事より其れを其れに
其れを其れにして天子ハ其の其れを其れに其れに其れに
其れに其れより其れに其れに其れに其れに其れに其れに

於反逆也

高後昆不貽

同法也

誅之

玉強竊黨

類也 爲其擄同之具負之

徒黨

二事也 一誅之 一其れに其れに其れに其れに其れに其れに

二攻擄捕也

捕と軍忠也

軍旅と名也

能く用を以

以武具也

貝若山業系萌英志英系綴

卯の花織

卯の花織

卯の花織卯の花織は白糸小糸の崩葉の糸

黒糸の鏡赤華

黒糸の鏡赤華

色は薄皮で

黄糸の綴履高

黄糸の綴履高

糸は注ぎり糸は書き云永承

唐綾小櫛

唐綾小櫛

唐綾小櫛は唐綾小櫛は唐綾小櫛

馬華織

馬華織

馬華織は馬華織は馬華織

大荒目の桐丸

大荒目の桐丸

大荒目の桐丸は大荒目の桐丸

楮縄目

楮縄目

楮縄目は楮縄目は楮縄目

紺糸綴履高

紺糸綴履高

紺糸綴履高は紺糸綴履高

星白

星白

星白は星白は星白

龍頭

龍頭は龍頭は龍頭

四方白の甲

各一か

同色の袖

并ふ蓋

襦着

せ首

添懸

渡袴

送頬

胡藤

石打の証矢

是ハ大袖のわがしに
返りし事あり

四方白甲

かぎの節と襦着
四方へ返りし方と甲

向し又二方八方へ返りし方と三方白八方白し云々の例ハ今乃
節曹と八方白し云々の節曹と四方白し云々の例ハ甲ハ
よりハの事と然る成りありて

各一か

一かハかぎの
の事と甲白

新改四方白皆一か
中人者し書しあり

同色袖

同色ハ襦の襦
色の目しき袖ハ大袖

中袖小袖あり大袖ハ式の襦着ありされハ甲ハ
威し振毛ありあり表々今乃節曹子徒草やして付しあり

并ふ蓋

汗小袖あり甲の事ハ或ハ襦蓋とも云ふ故
かぎの事と又表具廻談小難ハ甲の以身

あり添懸ふ子代平家ふ子隠者ふ子蓋掛家ハ
いへり廻後の流しをさしされハ甲ハ

襦着

又襦着ハ書物ハ十五王改をありハ
襦着ハ七八九十二

せ首

かぎの首の事ハ
せ首ハ一而より

いへり添懸ふ子代平家ふ子隠者ふ子蓋掛家ハ
襦着を毛境と云ふ又云ふ事と云ふ事と云ふ事

添懸

古ハ

いへり添懸ふ子代平家ふ子隠者ふ子蓋掛家ハ
仕着ハ袂或ハ借草やといハ大袖之きあり

渡袴

越藤
の佩

送頬

又頬頬とも云ふ南の鼻あり
面頬し云鼻ありと送頬といふ

籠

矢証
さす

いへり添懸ふ子代平家ふ子隠者ふ子蓋掛家ハ
さし事ハ十口節あり又云節ありありせ付ハ一節本矢と

いへり添懸ふ子代平家ふ子隠者ふ子蓋掛家ハ
もと袖の矢し云返返すて袖ハ矢ありしを

胡藤

名ど

いへり添懸ふ子代平家ふ子隠者ふ子蓋掛家ハ
さしおかり亦さしハの事ありハ胡藤の矢証ハ
又ハ藤の内ハ長さ守の繪ハ守の柄を付しあり

いへり添懸ふ子代平家ふ子隠者ふ子蓋掛家ハ
指し云胡藤ハ藤の次ハ

石打証矢

骨の尻
小大石打

若彫物漆澤并金銀

右色白柄の長

馬と連袢葦毛

桐子栗毛編毛

箱毛黒鶴毛麻

毛向車毛毛粉

右の色の此乃

鞍の下と柄の如く

馬と連袢葦毛

桐子栗毛編毛

箱毛黒鶴毛麻

毛向車毛毛粉

皆彫物漆澤并金銀

右柄長

馬と連袢葦毛

桐子栗毛編毛

箱毛黒鶴毛麻

毛向車毛毛粉

河赤毛

髪白

月額

駁

踏等

相副

舎人

白梅

漆澤

鞍

料鞍

髪白月額葦毛

令橋梅の漆

白梅漆澤の法

料の鞍梅

相副

舎人

白梅

漆澤

鞍

料鞍

白梅

漆澤

鞍

料鞍

白梅

漆澤

鞍

料鞍

白梅

漆澤

鞍

料鞍

白梅

漆澤

鞍

白麿の響大形

細筋の子徳

腰帯 豹の皮

鹿子の切付

氷豹 熊の皮

泥凍 鞆

鹿子の切付

靴替の箱袋

油単木の雅具

武士の名譽

白麿の響 響の白くまをいふ 大形 響の形

細筋の子徳 細筋の子徳の響

腰帯 腰帯の響 豹の皮 豹の皮の響

鹿子の切付 鹿子の切付の響

氷豹 氷豹の響 熊の皮 熊の皮の響

泥凍 泥凍の響 鞆 鞆の響

鹿子の切付 鹿子の切付の響

靴替の箱袋 靴替の箱袋の響

油単木の雅具 油単木の雅具の響

武士の名譽 武士の名譽の響

夜諾後諾も
陣旅の軍致ん

一命と奔將者
を竭せ

法則状小我也
後流の飛渡小
傷止了也

名をそとほ名のまよふて
かまればあふ事なり
夜諾後諾
夜諾ハ

あり好信とハ後ノ徳
先乃撥しかりかり
陣旅之軍致ん
陣旅

陣軍旅と同一軍致
とハ公我の命とひるなり
奔一命と竭粉
一命とハ

骨
於骨と竭せしハ粉骨のそと
を十石とせり
裁説判
裁説判

状
感状と云付
の類なり
不被備後流飛渡
不被備後流飛渡

後流ハ子孫のゆく飛渡ハ
飛りてとトと云今ハ
此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

此吉凶と若るりのゆれ
逃く後ハ形の美悪とあり
にあらひ悪をあらはし
人となれば瓜見と似て

時を初め

信よりゆゆの

ゆゆ

諸事約法帰虎所

大略此式也

境節

大略此式也

馬の御

六月十日

兵部聖丹治

御上 勅由

御上 勅由

御上 勅由

御上 勅由

御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

六月十日 兵部聖丹治

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

御上 勅由 御上 勅由

持朱坊日以結
結の結
凡俗の爲入可
のぬ一し也す

紅紫重楊裏
紅紫重楊裏
紅紫重楊裏
紅紫重楊裏

隔子の織物單
隔子の織物單
隔子の織物單
隔子の織物單

菱袴好の裳

夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の

持朱坊日以結
結の結
凡俗の爲入可
のぬ一し也す

負經紫
負經紫
負經紫
負經紫

爲風流の爲
爲風流の爲
爲風流の爲
爲風流の爲

紅紫重楊裏
紅紫重楊裏
紅紫重楊裏
紅紫重楊裏

爲紅袴
爲紅袴
爲紅袴
爲紅袴

魚小袖
魚小袖
魚小袖
魚小袖

衣濃紅袴
衣濃紅袴
衣濃紅袴
衣濃紅袴

菱袴好裳
菱袴好裳
菱袴好裳
菱袴好裳

夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の

夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の

夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の

夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の
夜打系地紫の

浮文綾
浮文綾
浮文綾
浮文綾

村紺捲淺紫の
村紺捲淺紫の
村紺捲淺紫の
村紺捲淺紫の

小袖同然帯
小袖同然帯
小袖同然帯
小袖同然帯

府法のも相視
冠表の表

水旱直衣

袴衣
大帷子
太刀長刀

大星の袴

繪子相視冠
冠の形なり
冠の表

表衣
冠の表

直衣
袖の表

鳥帽子
袴衣

大帷子
大帷子

太刀
太刀

長刀
長刀

大星の袴
大星の袴

牛狗懸
牛狗懸

帷子
帷子

相遠
相遠

七日月
七日月

大星の袴
大星の袴

白紙拂
白紙拂

不用
不用

下
下

房の鞆
狗をホ
帷子
相遠
七日月
大星の袴
白紙拂
不用

反袖を用る納
也更小袖様の
後より袖を
拵し入るる用
也のり目録
袖を之を下に
用て用端後
より拵し入る
也の也作一
名此文要目の
分ちて衣を拵
る納色の色納
は法衣

二重の
使を不
十入れ
絹素拵
拵好
法服
裳
拵尾
納色の下袴

反袖也

反袖ハ丁子用る者あり此ハ法衣也此ハ
多きあり一更なる者あり此ハ法衣也

更化袴也

更化ハ法衣也此ハ法衣也

拵字大用也事

但月録

用端拵也

也

之分也

色魚袴

二重也

使不也

絹素拵

拵好也

法服

裳

拵尾

納色下袴

鏡 神 錫杖 珠

香爐 水 稻 糞 糞

志珠 帽子 垂緹

鼻高 鼈虎梅竹の角

一對 筆 笙 笛 笙 筆 葉

方磬 尺 太鼓 羯鼓 心鼓 拍子 指鼓 香 同 鼓 身 个 之 用 羯 車 鼓 香 日 二 鼓 拍 系

鏡 佛の鏡なり 鏡 佛の鏡なり 神 法事ふすなり

錫杖 この錫杖は 錫杖 この錫杖は

鈴 鈴の 鈴 鈴の 以 以の 以 以の 必 必の 必 必の 志 志の 志 志の

香爐 香爐の 香爐 香爐の 水 水の 水 水の 糞 糞の 糞 糞の 糞 糞の 糞 糞の

志珠 志珠の 志珠 志珠の

帽子 帽子の 帽子 帽子の

垂緹 垂緹の 垂緹 垂緹の

鼻高 鼻高の 鼻高 鼻高の

鼈虎梅竹の角 鼈虎梅竹の角 鼈虎梅竹の角 鼈虎梅竹の角

一對 一對の 一對 一對の

筆 笙 笛 笙 筆 葉 筆 笙 笛 笙 筆 葉

方磬 尺 方磬 尺

太鼓 羯鼓 心鼓 太鼓 羯鼓 心鼓

拍子 指鼓 拍子 指鼓

香 同 鼓 身 个 之 用 香 同 鼓 身 个 之 用

羯 車 鼓 香 日 二 鼓 拍 系 羯 車 鼓 香 日 二 鼓 拍 系

えんあらしを
換失者らむ
流の不足也
おま可若ん

七月日 紀

大統の世

下をのほ久し
事内と語せ
案内と語せ

芳恩と
わし 断る
の事案よ
思ひの悔意
也 思れ
於洛陽の都

田舎の
思れ
人の枝葉
不也

有損朱 中世と云ふと換と云 生涯

心憂也 生涯に生を 可存智者

心清き 世を知らずれば心清きもかる文脈あり

心清き

七月日 紀

大統の世

下をのほ久し 信申より 久不結

案内と語せ 久し考へ 強如忘性日

芳恩 強んや 断る

断胸中苦案 中より 思れ

悔意也 悔意に皆た 於洛陽

於洛陽静徳 於洛陽

思れ 思れ

田舎の 田舎

思れ 思れ

人の枝葉 人の枝葉

不也 不也

然之也門有法

然之也門有法 然之也門有法 然之也門有法

然之也門有法

此法とて、天下も、太平の法、
此法とて、天下も、太平の法、
此法とて、天下も、太平の法、

定家

定家

定家

定家

定家 定家 定家 定家 定家 定家 定家 定家 定家 定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

定家

男どそきい
越度出年ん
手事の女代を
書ふんは

かきしよん
手の下より
せむし
川河河河

上裁如判の
いんまき
おん改定

修定

下
改の條例
納法律令
武家
おん改定
よんし

越度出年ん
越度出年ん
越度出年ん

被書與孝
被書與孝
被書與孝

業志代
業志代
業志代

引付河河河
引付河河河
引付河河河

上裁
上裁
上裁

幼判所
幼判所
幼判所

判見改定
判見改定
判見改定

評定元宗
評定元宗
評定元宗

一注法
一注法
一注法

注法注法
注法注法
注法注法

係
係
係

成敗條例
成敗條例
成敗條例

納法律令
納法律令
納法律令

武家相
武家相
武家相

存察及山
存察及山
存察及山

字
字
字

天小 山 山 山
心車 鷹 鷹 鷹
及 不 併 面 海 海
湖 湖 湖 湖

七月 毎日
加賀の大御札
并上

氏 氏 氏 氏
指 指 指 指
依 依 依 依
不 不 不 不
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

心車鷹鷹鷹
及不併面海海
湖湖湖湖

膚 膚 膚 膚
併 併 併 併
湖 湖 湖 湖

沛沛沛沛

七月 毎日
加賀大御札

護上 氏 氏 氏 氏

依 依 依 依
不 不 不 不
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味
味 味 味 味

書作をすひす

上流人の賄賂

流中の属既

上流相中の出入

既人内奏ハズ

頁

横垣を窺ひ

をト可

漢状乃漢実

經

法亭とハ法後人の電なり經也ハるめなり
訓也法後人乃毛へけ乃御をりなり

一

國師也

是ハ一師師ハ師能ク事ト教カトナリ
是ハ一師師トナリ更ハ一師師トナリ

奉以人程極

奉以流の
を相ナリ

上流秘計也

秘計ハ内
事トナリ人

既人内奏具負

既人ハ法後ト事トナリ
上下ト事トナリ

窺極煙一

横垣ハ極中
トナリ

漢状謀實

漢状ハ人
トナリ

既人内奏ハズ

上流相中の出入

流中の属既

多以人の賄賂

書作をすひす

漢状乃漢実

をト可

横垣を窺ひ

既人内奏ハズ

越境相海

是ト
事トナリ

未分甲乙

凡物の一を甲ト云
一を乙ト云

漢代相傳

漢代ハ代ハ
傳トナリ

於川

於川ハ
川トナリ

頭人上流

頭人ハ
上流トナリ

既人内奏ハズ
上流相中の出入
流中の属既
多以人の賄賂
書作をすひす
漢状乃漢実
をト可
横垣を窺ひ
既人内奏ハズ

漢状乃漢実
をト可
横垣を窺ひ
既人内奏ハズ
上流相中の出入
流中の属既
多以人の賄賂
書作をすひす
漢状乃漢実
をト可
横垣を窺ひ
既人内奏ハズ

所前不持て對
文と通
時時是水小紀也
事以人奉書と
九拾也

注所志
永代
法券
婢雜人の奉書
和手状
貞累
文奉の條

れきつめい
之と記めす
右手
左手
修判也
先符方の

元の事大抵之度ナリ
お市前逐對交

お市前逐對交
お市前逐對交

奉以人之取

捨事書

於引付取立し評定書見

所令成敗也

注所志
永代法券

安堵年記放券
奴

婢雜人奉書

和手状
貞累

説文不謀交

乱咽之
管領寄人

右卷年以人亦評判也

奉行人得先符方

判ハキリ

上より
下へ
南条の仁者書
下と成り下國
の附たり

見よ
下
を
加
ら
下
地

興大業

南条仁者成書

下奉書

世音

相對書

奉年

投書

下地

一、め事... 二、め事... 三、め事... 四、め事... 五、め事... 六、め事... 七、め事... 八、め事... 九、め事... 十、め事... 十一、め事... 十二、め事... 十三、め事... 十四、め事... 十五、め事... 十六、め事... 十七、め事... 十八、め事... 十九、め事... 二十、め事... 二十一、め事... 二十二、め事... 二十三、め事... 二十四、め事... 二十五、め事... 二十六、め事... 二十七、め事... 二十八、め事... 二十九、め事... 三十、め事... 三十一、め事... 三十二、め事... 三十三、め事... 三十四、め事... 三十五、め事... 三十六、め事... 三十七、め事... 三十八、め事... 三十九、め事... 四十、め事... 四十一、め事... 四十二、め事... 四十三、め事... 四十四、め事... 四十五、め事... 四十六、め事... 四十七、め事... 四十八、め事... 四十九、め事... 五十、め事... 五十一、め事... 五十二、め事... 五十三、め事... 五十四、め事... 五十五、め事... 五十六、め事... 五十七、め事... 五十八、め事... 五十九、め事... 六十、め事... 六十一、め事... 六十二、め事... 六十三、め事... 六十四、め事... 六十五、め事... 六十六、め事... 六十七、め事... 六十八、め事... 六十九、め事... 七十、め事... 七十一、め事... 七十二、め事... 七十三、め事... 七十四、め事... 七十五、め事... 七十六、め事... 七十七、め事... 七十八、め事... 七十九、め事... 八十、め事... 八十一、め事... 八十二、め事... 八十三、め事... 八十四、め事... 八十五、め事... 八十六、め事... 八十七、め事... 八十八、め事... 八十九、め事... 九十、め事... 九十一、め事... 九十二、め事... 九十三、め事... 九十四、め事... 九十五、め事... 九十六、め事... 九十七、め事... 九十八、め事... 九十九、め事... 一百、め事...

右等小賊の
 所小舎人或
 下級者にて犯
 人と互に
 右等小賊の
 所小舎人或
 下級者にて犯
 人と互に
 右等小賊の
 所小舎人或
 下級者にて犯
 人と互に

法西中国の捕殺を重くし、海を今此所司代の事あり、この
 捕殺の事、下知を以てし、海を以てし、海を以てし、海を以てし、
 下知の事、人の
債討志 謀叛殺害 劫と奪を
 事あり、人の
山海兩賊 盜竊二盜 山城海賊
 人をこらんと
放火双傷 放火ハ火はけ、双傷と云
 見之、人の
謀躡 人を打く、謀と云
根籍 根籍ハ途中也、根籍
 人とあふふと、**爰願執事** 執事、執事
揆以之 揆以、揆以、揆以、揆以、揆以、揆以、
訴状 訴状、訴状、訴状、訴状、訴状、訴状、
部小反者犯人 部小反者、部小反者、部小反者、
詞 詞、詞、詞、詞、詞、詞、
依云 依云、依云、依云、依云、依云、依云、
劫犯 劫犯、劫犯、劫犯、劫犯、劫犯、劫犯、
所犯已 所犯已、所犯已、所犯已、所犯已、所犯已、

右等小賊の
 所小舎人或
 下級者にて犯
 人と互に

遁りて不問
別之と云
或と推問
拷問
拷問
拷問

同黨敷
身の究めの罪
て者は之を誅
せ戒むて者
之を禁める

流刑も可し者
流刑に記すは
火印を入す
下事の極重
其人の是れ
流刑に記すは
可し

不遁を則ち身を然らず

或は及て推問

拷問等

身を搜す

同黨敷

身の究めの罪

可し以て罪者被し誅す

可し戒む者禁獄す

刑者記す流刑

赤火印を入す

下事の極重

其人の是れ

流刑に記すは

可し

次に寺社之を誅す

然らばの罪を違はす

是れ也を誅す

是れ也を誅す

抄紙後紙の裏
捺紙後紙の裏
捺紙後紙の裏
捺紙後紙の裏

家務の要書
法規式

紙上小一紙
紙上小一紙
紙上小一紙
紙上小一紙

中さ合てり也
ハリセリ
教位長巻紙
大楯反
去る比ハシレ
他行の間出
失本望

覆動ハ其度ハシテ
抄紙後紙の裏
捺紙後紙の裏
捺紙後紙の裏

傾子集紙拂
傾子集紙拂
傾子集紙拂
傾子集紙拂

庭中
庭中
庭中
庭中

家務恩賞方法規式
家務恩賞方法規式
家務恩賞方法規式
家務恩賞方法規式

不可得計也
不可得計也
不可得計也
不可得計也

紙上小一紙
紙上小一紙
紙上小一紙
紙上小一紙

時
時
時
時

今市代也
今市代也
今市代也
今市代也

八月廿
八月廿
八月廿
八月廿

大楯反
大楯反
大楯反
大楯反

去る比ハシレ
去る比ハシレ
去る比ハシレ
去る比ハシレ

他行の間出
他行の間出
他行の間出
他行の間出

失本望
失本望
失本望
失本望

畢
畢
畢
畢

持將軍家着宮御東詣事
由來詣の事候
其の日記或方
より信拜せ候
以後日想をせ
下りく甚所詣
と宮東着候事
八幡宮系詣事
扱也今ゆい
記ぬ

傍車の上一人
騎るに後上人
若返の由未
弟く友侍候
天小都き臨以
花と若返侍衣
水早供有の人
ハ津衣白き由
金布衣の系勢
衣文高りと扱の
以振目と勢す

持將軍家着宮御東詣事

世將軍家ハ南ノ是利將軍といえ之
よ美ハ山城乃石法ハ八幡宮なり
列去
後

日想の字也
其所詣

今詣道園東鶴岡八幡宮老

詣洗
其所詣ハ七所あり
後東の住み及へり
鐘金とさして之

乃道節ありこの傍車ハ
お軍衣に石御車あり
一人ゆり

騎馬取大
是ハ馬上にて
治代はる

向ふみ友
若返ハ若返之由
而北面の侍也

陣以反花
陣以ハ花
身引引の

侍衣
前より花と勢ハハその名ぬれをさす
ちりりらやとく下此華の友花とは一振なりす

水早供を人
津衣白直金布衣

景輝
衣後の尻取上よりして且是後衣服の幼ふ
金布衣の系勢ハ中し金布衣といえ之

扱當
毎度して威
以振目

以振目
以振目

以振目
以振目

以振目
以振目

以振目
以振目

家文尚志

魚のね文也

を漆に九中百

推立舎人牛烟

と折色と交ゆ

中後陣の長

士警急の常士

色この甲冑

思ひの護車全

馬緋

弓服 重宝と志

新調の美藤と

用也

門外自也 花後

の流云上下小

不 毒ひた太の常

刀二竹小引

ねんも 法華刀の極人

由側友然の人

家文尚志法成

也魚のね文也

推立舎人牛烟推立舎人牛烟

と折色と交ゆと折色と交ゆ

中後陣の長中後陣の長

士警急の常士士警急の常士

色この甲冑色この甲冑

思ひの護車全思ひの護車全

馬緋馬緋

弓服弓服

重宝と志重宝と志

新調の美藤と新調の美藤と

用也用也

門外自也 花後門外自也 花後

の流云上下小の流云上下小

不 毒ひた太の常不 毒ひた太の常

刀二竹小引刀二竹小引

ねんも 法華刀の極人ねんも 法華刀の極人

由側友然の人由側友然の人

幣帛と大床小
拵け別当法儀
の葉小巻

巫八乙女志
若と安遠廊小
拵け

祓禊の神楽
相倉込の御也
拍子のお末
賽礼の奠
如左の儀と致

祓禊の神楽
相倉込の御也
拍子のお末
賽礼の奠
如左の儀と致

也 祓禊の神楽
幣帛と大床小
拵け別当法儀

儀 拵け別当法儀

の葉小巻

巫八乙女志

若と安遠廊小

拵け

祓禊の神楽

相倉込の御也

拍子のお末

賽礼の奠

如左の儀と致

祓禊の神楽

相倉込の御也

拍子のお末

賽礼の奠

如左の儀と致

祓禊の神楽

相倉込の御也

拍子のお末

賽礼の奠

如左の儀と致

幣帛と大床小

拵け別当法儀

の葉小巻

巫八乙女志

若と安遠廊小

拵け

祓禊の神楽

相倉込の御也

拍子のお末

賽礼の奠

如左の儀と致

祓禊の神楽

相倉込の御也

拍子のお末

賽礼の奠

如左の儀と致

祓禊の神楽

相倉込の御也

拍子のお末

賽礼の奠

如左の儀と致

鐘樓 二階 食堂 体

所 門 二階 厨

厨

僧坊

金毛 善男 乃

如來

白檀 度像 善

善

後侍 之二天

之と 射彫 中

細金 彩色 画

像 各

一物 房 像 の

墨画 一封

書字 指 之 の ね

煙 盤 若 と 持

讀 誦 經 王

誦

秘 法 と 勤 行

陀 羅 尼 と 唱 誦

念 誦 真 云

稱 名 念 佛

稱 名 念 佛

鐘樓 二階 食堂 体

所 門 二階 厨

僧坊

金毛 善男 乃

如來

白檀 度像 善

善

後侍 之二天

之と 射彫 中

細金 彩色 画

像 各

一物 房 像 の

墨画 一封

書字 指 之 の ね

煙 盤 若 と 持

讀 誦 經 王

誦

秘 法 と 勤 行

陀 羅 尼 と 唱 誦

九旬の供養

皆佛名と云ふ人

九旬供養

十日と一旬と云ふに九旬と云ふ

七月十者と云ふは秋也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。

其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。

其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。

其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。

其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。

其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。

九旬の供養
の接法

禪律

一夏持鉢

一夏といふ

白く九旬といふを一回。四月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。其時月十五日の朔也。

抄教以人亦持鉢

乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。

乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。

乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。

乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。

乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。

乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。

乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。

乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。乃其人と云ふは。

成一切執

成一切執。成一切執。成一切執。成一切執。

千僧供養。千僧供養。千僧供養。千僧供養。

等也

等也。等也。等也。等也。

但佛布施

但佛布施。但佛布施。但佛布施。但佛布施。

但佛布施。但佛布施。但佛布施。但佛布施。

但佛布施。但佛布施。但佛布施。但佛布施。

但佛布施。但佛布施。但佛布施。但佛布施。

こゝろの... 悔... 許... 一... 也

九月十日... 悔... 許... 一... 也

九月十日... 悔... 許... 一... 也

悔嘆... 許... 一... 也

悔嘆... 許... 一... 也

許... 一... 也

一... 也

一... 也

一... 也

一... 也

禮云

九月十日

悔

悔... 許... 一... 也

悔... 許... 一... 也

悔... 許... 一... 也

悔... 許... 一... 也

悔... 許... 一... 也

悔... 許... 一... 也

悔... 許... 一... 也

知識の傍にたよりなとあるもゆげと入力の世に
私の巻劇といえりようしてうへにやうな
謝也 謝しに巴うと
唱守事 守事
世と交文 交文
終法に逆也 終法に逆也
子逆水ありり
逆のよきと

見ん 見ん
善根の事 善根の事
調御れ 調御れ
え え

佛像經卷讚嘆
子細有り可
え

堂塔供養并法
法苑八海志大
相高る 相高る
一々 一々
大の道 大の道
聖の 聖の

知識の傍にたよりなとあるもゆげと入力の世に
私の巻劇といえりようしてうへにやうな
謝也 謝しに巴うと
唱守事 守事
世と交文 交文
終法に逆也 終法に逆也
子逆水ありり
逆のよきと

謝也 謝しに巴うと
唱守事 守事

世と交文 交文
終法に逆也 終法に逆也

終法に逆也 終法に逆也
子逆水ありり
逆のよきと

善根の事 善根の事
調御れ 調御れ

佛像經卷讚嘆
子細有り可

堂塔供養并法
法苑八海志大

相高る 相高る
一々 一々

大の道 大の道
聖の 聖の

佛像經卷讚嘆
子細有り可

堂塔供養并法
法苑八海志大

相高る 相高る
一々 一々

大の道 大の道
聖の 聖の

佛像經卷讚嘆
子細有り可

堂塔供養并法
法苑八海志大

相高る 相高る
一々 一々

大の道 大の道
聖の 聖の

佛像經卷讚嘆
子細有り可

成其部 成と成とハ誦儀乃及それハ **講師** 文

の美成と誦 **讀師** 誦儀讀師の意 **註記** 筆者 **聖**

者 擬す **證義** 誦儀の判者 **探題** 勤の奉 **并** **頌**

敬 法事の時純文と品なり **梵**

高 梵音ハ天竺の音多ク之故也 **揚杖** 小在 **對**

揚 **呪願** **可**

加請 **也** 加はるるなり **拾人** **童**

之儀式 拾人の儀 **大切也**

指南 **也** **先** 先人の儀

の法用 **意物** 法事の用

縁道 **飾** **講房** **薦**

幔幕 **大寶** **高**

座 **蓋** **珠**

路 **如意** **香** **燈** **香** **箱**

法事の用

法事の用

法事の用

法事の用

其部と成部
誦師讀師
聖者證義探題
并頌敬
梵音
揚杖對揚呪
也
拾人童

の儀式ハ
大切也
法事の指南
を以て先と
用を以て下
物也
縁道の飾
講房の薦
幔幕大寶高
座蓋珠
如意香燈香
箱

白蓋白拂 法螺燗者
機時 鐘巻との儀も
周章をいひ
日調へ直さる也

九月日
侍者
年の入道殿

九月日
侍者
年の入道殿
入院新命
院西堂
相看中さあ
るを招法
す可也
次は二の着
の具は

白蓋白拂 白きもをけり 法螺燗者

造花卓 香炉と 机 鐘巻との儀も 機時

之鐘既た入道に成也 さうしおれは

之調直也 さうして 廿四章を直也 さうして

之紙面有限 紙の換紙定り

之得し意不忠徳也 中なるいふま

毒細期見茶一雨也 さうして

九月日
侍者
年の入道殿

九月日
侍者

年の入道殿

入院新命 今度上の儀は 退院西堂

相看中さあ 見るを 招法 す可也

次は二の着 の具は

白蓋白拂 法螺燗者
機時 鐘巻との儀も
周章をいひ
日調へ直さる也

大徳とけい令
下り同し結
夏ゆちたるす
の付しん

禪律の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん

他一時の徳之の
修法坊の布徳
のいす
極美をん
調菜の仁

古光のゆきおの
中是月仁
定てなかに令
ん秋あゆ
ゆり了也

堂以和尙
堂以和尙

云連の附年くまへ着徳いさると
又の徳徳いさると帯やと訓す
徳徳の徳徳と徳
とまきし徳
同と結夏安
結夏六月
すんすん

徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん
徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん

徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん
徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん

徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん
徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん

徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん
徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん

徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん
徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん

徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん
徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん

徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん
徳徳の僧尼
寺法社をたの
元徳之とる徳
すんすん

東堂西堂

并小知り方

都寺

堅吉副寺

典夜直成

都寺

淨次

此方

東堂西堂

謀の傍友なり東堂二位小南兼持を勤て西堂より西堂も同一なり

人云西院の西堂よりあるなり東堂は南院の住持西堂は院主なり

并知事方

名知事は二事とほりて一は住持の代り

都寺

堅吉副寺

副寺は住持の代り

典夜直成

典夜直成は夜直成の代り

都寺

都寺は都寺の代り

淨次

淨次は淨次の代り

此方

此方は此方の代り

主

主は主の代り

淨次

淨次は淨次の代り

臥

臥は臥の代り

東堂後堂前首座

東堂は東堂の代り

後堂は後堂の代り

書記

書記は書記の代り

維那

維那は維那の代り

知事

知事は知事の代り

者

者は者の代り

湯茶

衣鉢侍者

衣鉢侍者は衣鉢侍者の代り

此方

此方は此方の代り

此方

此方は此方の代り

此方

の法僧 塔院 坊主 且と僧 山之主 庵 湯食

引者 系取 副系 堂司 庫司 炭頭

調茶人 工者 納 山守 火新 振出 律 僧 長老 戒の人 法師

之塔院 昔ハ年輪ハ方々ノ 塔院 塔の

且と僧 一坊の僧トシテ 且と僧 此僧一名 山之主 庵

湯食 一山一庵の 湯食 湯食

引者 白くぬいぢりかきと云 引者 此院の用をまゐる者ト云

系取 白くぬいぢりかきと云 系取 副系をま

副系 堂司 堂と云ハ 副系 堂司

庫司 書物の入るる箱をつつさる 庫司 庫の事ト云ハ 炭頭

炭頭 炭と云ハ 炭頭 炭と云ハ 炭頭

引者 引者 引者 引者

納 納 納 納

火新 火新 火新 火新

長老 長老 長老 長老

戒の人 戒の人 戒の人 戒の人

法師 法師 法師 法師

調茶人 調茶人 調茶人 調茶人

工者 工者 工者 工者

者一寺 者一寺 者一寺 者一寺

拾枝 拾枝 拾枝 拾枝

上品の細糸糸
 糸事方素紗
 物を并し襖
 単衫の緒
 花統本飾ホ
 各一配
 及首方素紗
 の衣如布各一
 此巾帽子出
 襪子杖杖脚
 搦巾中布衫

鉢盂巾
 暑靴本飾の肚
 脱蒲団花瓶
 香炉香箱香
 靴火節蠟燭
 竹篾曲線
 法紋打浦
 水引ホ
 以首下小布
 杖如布下

上品細糸糸
 糸事方素紗
 物を并し襖
 単衫の緒
 花統本飾ホ
 各一配
 及首方素紗
 の衣如布各一
 此巾帽子出
 襪子杖杖脚
 搦巾中布衫

花統
 花統の紋柄
 巾中
 巾中
 布衫
 杖杖
 杖杖

各一配
 及首方素紗
 素紗
 素紗

巾中
 巾中
 布衫
 杖杖
 杖杖

鉢盂巾
 暑靴本飾の肚
 脱蒲団花瓶
 香炉香箱香
 靴火節蠟燭
 竹篾曲線

箱香靴
 箱香靴
 箱香靴

竹篾
 竹篾
 竹篾

法被
 法被
 法被

以首下
 以首下
 以首下

杖如布下
 杖如布下
 杖如布下

えんハ水織温
踏心水織温
槽々雜登
羊羹糖羊羹
揚子砂糖羊羹
極純牌氏

索麵菓子麵

菓餅

菓子と抽梅菓子
揚熟瓜以菓子
小

時の糸物
了く伏免曲

菓餅燒餅茶
菓子茶餅
標ホ茶餅のお
用をそのの
粥の糸物
可茶具ハ建蓋
天目胡蓋碗州
菓子本梳茶茶

物の串ハ
踏心水織温
今云に

槽々雜登
羊羹糖羊羹
揚子砂糖羊羹

極純牌氏
索麵菓子麵

菓餅
菓子と抽梅菓子
揚熟瓜以菓子

時の糸物
了く伏免曲

菓餅燒餅茶
菓子茶餅

標ホ茶餅のお
用をそのの
粥の糸物

可茶具ハ建蓋
天目胡蓋碗州
菓子本梳茶茶

菓子本梳茶茶

天目胡蓋碗州

菓子本梳茶茶

可茶具ハ建蓋

天目胡蓋碗州

菓子本梳茶茶

可茶具ハ建蓋

天目胡蓋碗州

菓子本梳茶茶

可茶具ハ建蓋

天目胡蓋碗州

大にれんるはい
八入の壺一封茶
鐵茶葉茶桶
茶中茶枝煎豆
湯瓶

種子橘茶葉
小并小掬打發
豆子摺子進膳
二膳の折發同
一割發
也也汁七豆香
辛辣茶

雪林茶并
暑以腐華花
菊山葵寒汁ホ
也葉七織蘿
葡萄葉の牛房
昆布烏反布
搦布茶布
黃の落葉茶
茶石淡の茗荷
菰の子は茶葉
茶如ハ茶子茶葉
胡瓜の耳漬

八入壺一封茶
茶瓢

茶葉茶桶
茶中茶

免豆
湯瓶

種子橘茶葉
茶葉小

小并小掬打發
豆子摺子進膳

二膳の折發同
一割發

也也汁七豆香
辛辣茶

雪林茶
暑以腐華花

菊山葵
寒汁ホ

也葉七織蘿
葡萄葉の牛房

昆布烏反布
搦布茶布

黃の落葉茶
茶石淡の茗荷

菰の子は茶葉
茶如ハ茶子茶葉

胡瓜の耳漬
物

菰の子は茶葉
茶如ハ茶子茶葉

胡瓜の耳漬
物

納豆 蒸豆茶

苴園豆

芥菜

馬藻 實干

茸 茸茶

平茸 平茸の房

藥子 藥子の房

生栗

搗栗 串材

熟栗 干栗

花梨子

枝推

回烏子

瓜其漬 瓜其毒ありを漬く

茶 目茶 苴 苴を煮て汁を搾りて

芥 芥の根を煮て汁を搾りて

馬藻 馬藻の根を煮て汁を搾りて

茸 茸の根を煮て汁を搾りて

平茸 平茸の房を煮て汁を搾りて

藥子 藥子の房を煮て汁を搾りて

生栗 生栗を煮て汁を搾りて

搗栗 搗栗を煮て汁を搾りて

熟栗 熟栗を煮て汁を搾りて

花梨子 花梨子を煮て汁を搾りて

枝推 枝推を煮て汁を搾りて

回烏子 回烏子を煮て汁を搾りて

中を毒 中を毒を煮て汁を搾りて

回烏子 回烏子を煮て汁を搾りて

中を毒 中を毒を煮て汁を搾りて

回烏子 回烏子を煮て汁を搾りて

中を毒 中を毒を煮て汁を搾りて

回烏子 回烏子を煮て汁を搾りて

中を毒 中を毒を煮て汁を搾りて

回烏子 回烏子を煮て汁を搾りて

いりご 中て
覆盆子 而人多
取つて ごとく
虚子の 自然を
よ法て 之と用也

下法 所病 順
察所 皆 順
元 定て 浦
或思 在 法て 飲
然心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

此 心 形 逆 逆 逆
後ハ 各 庭 の 法
汁ハ 亦 有て 之 也
小 依て 粗之を
示ル

蓋 姑と 書 多く 食
されハ 勝 下 して 守
鬼 中 中 中
中 中 中

覆 盆 子
の 結 あり
不 入 集

虚 子
の 結 あり
不 入 集

病 眼 察 所 皆 順
元 定て 浦

定 浦 山 炭
の 結 あり
不 入 集

送 子
の 結 あり
不 入 集

汁 也
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

覆 盆 子
の 結 あり
不 入 集

虚 子
の 結 あり
不 入 集

病 眼 察 所 皆 順
元 定て 浦

定 浦 山 炭
の 結 あり
不 入 集

送 子
の 結 あり
不 入 集

汁 也
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

巨 細
の 結 あり
不 入 集

糖治養治の症

いろうよんわいら
医骨の仁とおの

ひゆしほも

救医師を問え

あり一候和丸

丹波と典薬の

くん 純善院の

察

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

ありてはをを

高療治養治 糖治、年かさむし引七英 糖

お尋醫骨仁心 医骨と医術の奥儀

救医師と 奥儀しつふ事ふたふたふたふたふた

間見生丸 下は医者の多きといえり

波と典薬と 是は上の子の医者のふりといえり

曾以粒 和丸丹波を医者の富氏といえり

連糸院察 此院は友善院の先

育て丸仁心 医術ふさぎ一正

奉連也 施善院の医者の多く集り居る

湯治 湯治よりして 御治 医術と云

養生と連者 養生は補薬を用ひて

此切山 此切山といふは

脚氣 足の病 中風 卒中の

赤痢 赤痢といふは肉をけり

内痔 痔の尻の病

赤痢 赤痢といふは肉をけり

内痔 痔の尻の病

赤痢 赤痢といふは肉をけり

内痔 痔の尻の病

赤痢 赤痢といふは肉をけり

内癰丁

癰疽

瘰癧

疔瘡

癰疽

瘰癧

疔瘡

癰疽

瀉藥

補藥

加減

合劑

禁好物

茶

日記

茶

茶

癰疽

瘰癧

疔瘡

癰疽

瘰癧

疔瘡

癰疽

瀉藥

補藥

加減

合劑

禁好物

茶

日記

茶

茶

癰疽

瘰癧

疔瘡

癰疽

瘰癧

疔瘡

癰疽

瀉藥

補藥

加減

合劑

禁好物

茶

日記

茶

茶

癰疽

瘰癧

疔瘡

癰疽

瘰癧

疔瘡

癰疽

瀉藥

補藥

加減

合劑

禁好物

茶

日記

茶

茶

更一法も下は

兼て手と此法

併而進し附と

しんうし

五月三日 奉末

此と

かまのし

いふと敷い

ままと技さ敷

法と敷い

法と敷い

久し

かまのし

いふと敷い

下字法 某殿の御書より 兼て

兼て 兼て手と此法 併而進し

しんうし しんうし

五月三日 奉末

此と

いふと敷い

ままと技さ敷

法と敷い

法と敷い

久し

かまのし

いふと敷い

ままと技さ敷

法と敷い

兼て

併而進し

しんうし

五月三日

此と

いふと敷い

ままと技さ敷

法と敷い

法と敷い

久し

かまのし

いふと敷い

ままと技さ敷

法と敷い

大葉煙草

糾破の草

和菓と用ひるハ

をせ令下し

み本ハ草ハ湯

山

現せん

括セ方費

丸房内の夜

大葉煙草

糾破の草

和菓と用ひるハ

をせ令下し

み本ハ草ハ湯

山

現せん

括セ方費

丸房内の夜

酒酒の破研

眩眠の昏沈

此法の夜部

此の辛号

此の辛号

此の辛号

此の辛号

此の辛号

丸房内の夜

酒酒の破研

眩眠の昏沈

此法の夜部

此の辛号

此の辛号

此の辛号

此の辛号

此の辛号

此の辛号

此の辛号

すよきい くらん
臥る性日の眠道
を多りうや

手まてこやうのこら
倦らぬ上流しん

えん ぬ
言信ふれうふ

のこらぬいり
し密契其甲
いやく
好女

きんしのやうい
隔ゆるい 倅
中と後し 試小推
早ういふ
色に及ふ
法れきやう

すよきい くらん
脚白ふいふ

面影の流 **願也忘行日と眠道** 性日の眠り也
眠るはれ

きんしのやうい **随句に上流しん** 性
とれよ

ていしん **不傾音**

信了来 **密契其甲**

密契ハ朋友の好意と動て **隔ゆるい** 性
他い見あやと

改悻好 **試及**

推をいして **沙氣也也**

親意ハ **然**

新きうり **然**

而也之産

集 **集**

云裕云恰然日何比乎

あけ **且住園**

物 **且住園**

且住園

すよきい くらん
脚白ふいふ

集 **集**

云 **云**

日 **日**

且 **且**

且 **且**

清海息忽披閱
光法と池
建源佛手也
何の時と之
何の時と之

吊り書内と破
下く血筋の疲
若長運の病
息のしほて
入候之儀の儀式
若府吏書之法
母の細子細
左廳人等

清海息忽披閱
清海息忽披閱の事と披閱の事と

珠
珠の事と珠の事と

北老將志
北老將志の事と北老將志の事と

抑遠遠
抑遠遠の事と抑遠遠の事と

輒依輪道音
輒依輪道音の事と輒依輪道音の事と

思池光臨
思池光臨の事と思池光臨の事と

恨汝主也
恨汝主也の事と恨汝主也の事と

何時謝
何時謝の事と何時謝の事と

即不破書内
即不破書内の事と即不破書内の事と

途露露
途露露の事と途露露の事と

同新
同新の事と同新の事と

入候
入候の事と入候の事と

若府吏書之法
若府吏書之法の事と若府吏書之法の事と

母の細子細
母の細子細の事と母の細子細の事と

左廳人等
左廳人等の事と左廳人等の事と

日並の出仕恒例
此の如く
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

諸役人をきく
日並出仕
出仕は公所
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例
恒例
恒例

恒例

日記月録

恒例
恒例
恒例

國家小目代の借
借の地文

下目代
此の借は

名主百姓の借
返納時付の借

准納布布の借
例

國家小目代借借地文

目代は目代借は大小あり小目代より今付大目代も同様の額なり今付大目代は置替借は勿論其非の事なれ借借は小目代と用ひる借借の地文

下目代郷司の事引付
下目代郷司の事引付
左の額也公引付

徴収給ふ交官宛文
徴収は是
八月七日

名主百姓借地文
返納時付の借
石文の事一ヶれん

返納時付借地文
借地は返納時付の借
借地は返納時付の借

貢納調進
貢納調進
貢納調進

納准布布例
納准布布例
納准布布例

別納直進法文

別納直進法文
別納直進法文
別納直進法文

租穀租米送状
租穀租米送状
租穀租米送状

納所率法
納所率法
納所率法

現物色代
現物色代
現物色代

償
償
償

未納色代
未納色代
未納色代

早水由換換回
早水由換換回
早水由換換回

東納以上の准
播早水由換の
換回

期
収納徴納
現物色代

租穀租米の送
状細石の率法

Handwritten notes and smaller text in the right column, including terms like '借借', '貢納', and '納准'.

誤訂	誤訂	誤訂	誤訂	誤訂	誤訂	誤訂	誤訂	
風月往來捷注	和漢詞詠捷注	實語教捷注 童子教	商賈往來捷注	古狀攝捷注	庭訓往來捷注 <small>章意入</small>	庭訓往來捷注 出朱	萬寶庭訓往來捷注 <small>以子骨</small>	
近刻	近刻	近刻	近刻	近刻	近刻	近刻	近刻	
							誤訂	泐成敗式目捷注 近刻

天保六年二月
李野之系求之

